

埼玉トヨペット



Green Brave

NEWS



2014年10月25日(土) 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

スーパー耐久シリーズ2014 第5戦

チームプレイで逆境をはねのけ6位完走 スピードアップが今後の課題

決勝結果

ST-4 クラス 6位

52号車 埼玉トヨペット GreenBrave

ドライバー

番場 琢選手/服部 尚貴選手/平沼 貴之選手



<10月23日>プロローグ……………シリーズ唯一の140分1DAYレース

第5戦は通常のスーパー耐久シリーズとは異なるWTCC(世界ツーリングカー一選手権)と併催。埼玉トヨペット Green Brave が参戦するST-4クラスは、ST-5クラスとともに土曜日に140分間の決勝を行う。予選は行わず、第4戦までのシリーズランキングがグリッド順になる特別フォーマットだ。前戦でリタイアした悔しさを晴らすべく、1ヵ月半という限られた時間の中で、できる限りの準備を行ってきた。クルマはトラブルの原因となった箇所をつきとめ修復。新しいフロントバンパーを投入し、クルマ全体の軽量化も行った。



よりダウンフォースを発生する新形状のフロントバンパーを投入

昨年参加した2人(持田 & 岡安)のサービスインジニアがチームに合流



また、Cドライバーの平沼貴之選手(埼玉トヨペット代表取締役専務)は、岡山国際サーキットで行われたOKAYAMA チャレンジカップレースに参戦。走り込みを重ねた。さらに、栗橋サービスセンターから持田エンジニア、北本南支店から岡安エンジニアという経験者が加入した。10月14日にはモータースポーツ室とサービスエンジニアによるピットワーク合同練習会を本家で、10月16日には富士スピードウェイでの事前走行テストをそれぞれ行い、チームは木曜日に鈴鹿入りした。

<10月24日>練習日……………タイヤバリアにヒット。チーム総出で修復にかかる

朝 8 時 30 分からの専有走行 1 回目は番場選手が走行を担当。クルマの仕上がり具合を確認する。感触は良好で、番場選手の表情も明るい。10 時 30 分からの 2 回目も番場選手からスタート。途中で平沼選手にバトンタッチし、昨年 10 月のスーパー耐久第 6 戦以来となる鈴鹿のコースを走る。ところが、ヘアピン進入で前車との接触を避けコースアウト。タイヤバリアにヒットし、右側リアセクションを破損。自力でピットまで戻れたものの、以降の走行をキャンセルすることに。ピットではスタッフが慌ただしく板金の手配や、パーツの調達に動きまわる。



ヘアピン進入でコースアウト。ピットイン後すぐに修復にとりかかる

深夜になってリアバンパーが到着。すぐに装着にとりかかるスタッフたち



クルマは他チームのご厚意で積載車を借り、サーキット近くの板金工場に持ち込んだ。また、持ち合わせのないリアバンパーはスタッフがメーカーまで取りに行くことになった。スタッフ全員が「絶対直す」という強い決意のもと動いている。クルマが板金工場から戻ってきたのが、陽も落ちた 18 時過ぎ。それから修理を始め、取りに行ったリアバンパーを取り付けし、アライメントの確認を行い、ホテルに帰ったのはなんと 2 時 30 分！ スタッフ全員の努力によりクルマは修復され、明日の決勝へと望みをつないだ。

<10月25日>決勝……………トラブルフリーで6番手に食い込む

決勝日。朝 7 時に眠い目をこすりながら、ピットにスタッフが集結する。真新しい白いバンパーと右リアセクションの板金跡が痛々しいが走行できる状態に戻っている。8 時 15 分から 30 分のフリー走行がスタート。番場選手、服部選手、平沼選手の順で、ステアリングを握り、マシンの感触を確かめる。ストレートを疾走する姿を見る限り、レーシングスピードでの走行に支障はないようだ。タイムは ST-4 クラス 19 台中の 6 番手。「クルマは大丈夫」と笑顔を見せる川尻監督。ドライバーからも影響なしという力強い言葉が。12 時 10 分、スタート進行開始。スタートドライバーを務める平沼選手が 8 番グリッドにゆっくりクルマをつける。



応援団が到着。スタンドから声援を送る

目の前のスタンドにはグリーンの T シャツを着た応援団が陣取る。昨晚の状態を考えればよくぞリカバリーしたと言えるが、スタッフ 1 人 1 人はそんな感慨に浸っている余裕はない。12 時 30 分、1 周のフォーメーションラップの後、ST-4、ST-5 クラス全 27 台が 1 コーナーになだれこむ。平沼選手はライバルにインを狙われるのも、なんとか抑え込み、オープニングラップを 8 番手で通過。その後も後続のライバルが迫ってくるが、無理にブロックせず、後方へと下がり、7 周したところでピットイン。番場選手へと交代し、燃料を満タンにしてライバルを追撃する。好タイムを刻み、順調にポジションアップする 52 号車。番場選手が 33 周したところでアンカー服部選手へ交代。

ピットウォーク中に平沼選手のバースデイを祝うサプライズパーティーが行われた



ニュータイヤと軽いタンクでスパートをかけ、ポジションはなんと 5 番手までアップ。ライバルの動向次第では、表彰台の期待もかかる。しかし、ホンダ勢とのスピード差は大きく、1 つ順位を下げて 6 位でチェッカー。2014 シーズンの最高位更新はならなかった。

スピードの向上という大きな課題に直面したチームだが、時間内にクルマを修復し、上位で完走したことで、新たな自信を手にした。最終戦、オートポリスまで 2 週間を切ったが、確実にポテンシャルアップを図り、念願の表彰台を獲得する覚悟だ。オートポリスでの 52 号車の活躍に注目してほしい。



後続のホンダ勢をおさえて順当なスタートを決めた平沼選手

VOICE FROM DRIVERS&TEAM PRINCIPAL

メカニックが頑張ってくルマを直し、平沼さんも完走できたので良かったです。うちのクルマのコーナリング性能は悪くないので、次戦もそこそこ戦えると思いますが、リザルトの底上げをするには、ストレートが速くなるセッティングを考える必要があります。



(番場 琢選手)

上に行くにはまだまだやる事がたくさん。着実に改良を加える必要があります。ストレートスピードが足りずホンダ勢との差も大きいので、そこを何とかする方法を考えなければいけません。オートポリスは 86 に向いているコース。頑張ります。



(服部 尚貴選手)

ポジションアップしてフィニッシュできて良かったです。慣れないコースで当ててしまいましたが、エンジニアが夜を徹してクルマをしっかりと直してくれ、心強かったです。次回は最終戦ですが、クルマをきちんとアップデートし、表彰台に登りたいです。



(平沼 貴之選手)

厳しい状況下でのレースでしたが、スタッフ全員がそれぞれ力を発揮し、トラブルフリーで完走することができました。ひとつでも上の順位でフィニッシュできるよう、全員でレベルアップできるようなもっと努力しなければなりません。と思っています。



(チーム代表：岩田勝俊)